

こんにちは

日本共産党

星野たかしです

149

2012年1月31日

星野たかし事務所

港区白金3の4の4

電話・FAX

(3442)3173

G M shirokane.hoshino.takash@gmail.com

アメリカ・財界いいなり

「二つの害悪」断ち切る改革を
民主党政権 国政担う資格なし

解散し、審判仰げ

志位委員長が代表質問 衆院本会議

あらゆる分野で国民の願
い、国民への公約を裏切り
暴走を続ける民主党政権に、
もはや国政を担う資格はな
い。日本共産党の志位和
夫委員長は27日、衆院本
会議で代表質問に立ち、国
政の熱い焦点について野田
佳彦首相の姿勢をただすと
ともに、衆議院を解散して
国民の審判を仰ぐことを求
めました。

述べ、「政権交代に託した
国民の願いをことごとく裏
切った自覚と反省はあるの
か」と追及。国民の願いに
応えるには「アメリカいい
なり・財界中心」という
「二つの害悪」を断ち切る
改革こそ必要だと力説しま
した。

首相は「アメリカいいな
りとの指摘はあたらない」
「(消費税増税は)公約違
反でない」と開き直り、な
んらの反省もみせませんで
した。

志位氏は、消費税増税、
沖縄・米軍新基地建設を引
き継ぎ、環太平洋連携協定
(TPP)参加への暴走を
続ける野田政権は「自民党
以上に自民党的政権」だと

東日本大震災について志
位氏は、被災者の命と健康



(写真)代表質問をする志位和夫委員長。その奥は野田佳彦首相=27日、衆院本会議

を守り、仕事と収入を保障
する緊急措置を要求。原発
事故「収束宣言」の撤回や
全面賠償、徹底した除染な
どを求める「オール福島」
の声を突きつけ、原発再稼
働は「論外だ」と追及しま
した。

10%への消費税増税に
ついて志位氏は、被災地を
情け容赦なく襲う「冷酷な
政治」だと告発。(1)無駄
遣いは続けたまま(2)社会
保障は切り捨てばかり(3)
経済も財政も共倒れになる
という三つの大問題を示
し、16兆円もの負担増は
「日本経済をどん底に突き
落とし、財政破綻もいつそ
うひどくする」とただしま
した。

その上で、社会保障拡充
と財政危機打開のために、
三つの政策(一)まず、無駄
遣いの一掃と富裕層・大企
業に応分の負担(二)つぎの段
階では、社会保障抜本拡充
のための「応能負担」に基
づく税制改革(三)それらと同
時並行で「ルールある経済
社会」づくりで財源を確
保する民主的改革を提案し
ました。

裏面につづきます

首相は三つの大問題に答えられず、増税を「先送りできない」と繰り返すだけでした。

は「当然」と居直りました。最後に志位氏は、国民の多様な民意を切り捨てる衆院比例定数の80削減に断固反対し、党派を超えた共同を呼びかけました。首相は「比例定数の削減が民意を切り捨てる」との認識に立つてはいない」などと事実も認めず、民意をゆがめる小選挙区制に固執する姿勢を示しました。

富裕層・大企業優遇の不公平税制を見直し、応分の負担を求める。

(2) つぎの段階では、社会保障を抜本拡充するたに国民全体で支える。「応能負担」「累進課税」の原則にたった税制改正で財源を確保する。

アメリカいなり政治の焦点として志位氏はTPPと沖縄・米軍普天間基地問題を追及。この中で、TPP交渉では各国の提案や交渉文書は4年間も「極秘扱い」にする合意があるとの二ユージーランド政府の公式発表を示し、首相が約束する「情報収集」や「十分な国民的議論」は不可能だと追及しました。

【社会保障拡充と財政危機打開のための三つの柱の政策】

(1) まず、巨大開発や原発推進予算、米軍「思いやり」予算、政党助成金などムダ遣いにメスを入れる。

(3) (1)(2)と同時並行で、「ルールある経済社会」に前進する。正社員が当たり前の社会をつくり、最低賃金を大幅に引き上げ、大企業にたまった260兆円にのぼる内部留保を社会に還流させ、内需主導の健全な経済成長をもたらす。

政党助成金“返上せよ” 市田氏主張 ムダ削る姿勢ない民主

日本共産党の市田忠義書記局長は29日、NHK番組「日曜討論」で、国民的な批判が高まる政党助成金について「ムダ遣いであるのと同時に、政党のあり方が問われている。自分たちはぬくぬくと税金で政党の運営をやりながら、国民には消費税増税を強いる。民主党は『官から民へ』といいながら、『国営政党』そのものではないか」と指摘し、返上を呼びかけました。

民主党の樽床伸二幹事長代行は「定数削減は一番高いハードルだ。あれもこれもやると、一番高い山を登る馬力がうせる」などと述べ衆院比例定数削減は進めながら、助成金には手をつけたい考えを示しました。

「共産党は政党助成金に反対で受け取っていない」と紹介された市田氏は、民主党が本部収入の82%を税金でまかなっている実態を示し、「山が高いと言われたが、『返上する』と言えばすぐできる」と言及。「ムダを削る」といいながら、政党助成金だけは温存する民主の姿勢を批判し、「返上する気があるのか」と問いました。

樽床氏は「定数削減の『山が高い』といった。誤解だ」などとこまかし、助成金については「法律のもと」でもらい続けることを表明。市田氏が「全然、身を削る気持ちがない。どうして聖域にするのか」と畳み掛けると、樽床氏はだんまりを決め込みました。

国民新党の地下幹郎幹事長は「政党助成金をもらったから身を削っていないとはならない」などと主張。自民党の田野瀬良太郎幹事長代行も「議論はいいが、どれもこれもとはできない。まず定数削減が先だ」と述べるなど、政党助成金の返上に背を向けました。

